



一日体験入学を開催 本学の魅力伝える



自己紹介するキャンパスツアーの案内役の学生たち 右から長尾君、春日さん、中田君

在学生の視点でプレゼンテーション
キャンパスツアーや実習で本学を体感

7月26日(日)、8月2日(日)に一日体験入学が開催され、合わせて15組32人が参加した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で5・6月は開催を見合わせていたが、ホームページで本学の「新型コロナウイルス感染症防止対策」を明示し、参加者には事前に体温チェックや抗体検査を受けていただき、3密にならないように席の間隔を空けるなどの対策を施したうえでの実施となった。

一日体験入学は、冒頭で宇田川信之
歯学部部長が挨拶し、本学の教育方針を
はじめ、独自のカリキュラム、学生支
援体制、近年の歯科医師国家試験にお
ける本学の躍進などについて説明した。
続いて第6学年の中田智是君が学生
の視点による本学の魅力をプレゼンテ
ーション。6年間の学習の流れを紹介し、勉学に集中した疲れをキャンパス
の自然豊かな環境が癒してくれるこ
と、充実した設備により学生生活を快
適かつ有意義に過ごせることなどを伝
えた。選択科目「歯科医学研究」を通
じてのリサーチマインドの習得や先
輩・後輩の繋がりができる部活動の重
要性も強調した。課外活動についても

触れ、まつもとと広域ものづくりフェアへボランティア参加し市民と交流した経験や、世界的指揮者・西本智実さんによるクラシックコンサートへの感動、学生間の絆を深める松濤祭や体育祭など多様なキャンパスライフの楽しさも話した。

中田君は、本学の特徴としてウィークリーテストで学習の習慣が身につく、単科大学なので全学生が同じ目標をもってがんばれることを挙げ、「歯学部は学ぶべきことが多く勉強は大変ですが、本人のやる気次第で夢はかかいます。松本歯科大学の先生方は親身になって指導してくれます。学生同士で切磋琢磨し、皆で歯科医師を目指しましょう」とメッセージを贈った。

キャンパスツアーの案内役

新型コロナ対策を強化！
夏休み返上学力向上めざす

昨今の新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大で、教育現場における集団行動の中止を余儀なくされている。本学では現在、歯学部・大学院・衛生学院学生におけるクラブ活動、県外への帰省およびアルバイトを当面の間禁止としている。マッチング試験などのやむを得ない県外への移動に関しては、届出を行い、認められた場合は、帰着後1週間の健康管理期間を設け、その後感染の有無について問診および抗体・抗原検査を実施する体制を構築し

ている。医療従事者を志す者として、高い自覚と責任を持って行動することの重要性を教育している。

今年度は、4月中の授業・行事等は休止し、5月からWeb映像授業を開講（第6学年は3月10日から開始）、6月1日（月）からは全学年において対面通常授業および臨床実習を開始した。一方、26人ほどの留学生在が再入国できない状況が生じていたが、約半数は8月下旬に大学に復帰できることになったのは喜ばしいことである。

このような状況の中、歯学部学生は夏季休業を返上し、各学年主任の下、教科目担当教員による補習に全員が毎日参加し、学力向上のため実りある生活を送った。

8月10日（祝）には、4月に予定されていた学生健康診断を本学病院において実施した。健康診断後、2回目の新型コロナウイルス感染症抗体検査も行われた。この検査は、「7月の4連休における感染チェック」としての無症状病原体保有の確認と

個別集団での抗体取得率の推移をみることを目的としている。522人の再検査を行った結果、感染初期抗体（IgM）および感染後期抗体（IgG）ともに全員陰性であった。今回の結果の要因として、①松本平の市中感染がないこと、②学生自身の予防対策が徹底していたことが挙げられる。

抗体検査後には、歯学部学生にダチヨウの卵から抽出した抗体を含むさせたフィルターを装着した「ダチヨウ抗体マスク」と新型コロナウイルス感染症対策のための体

調・行動記録帳「長野県民手帳」が歯学部学生に配布された。

本学においては、入館口を2つ（病院入口と本館エントランス）に絞り、サーモグラフィーによるトリア



配布されたダチョウ抗体マスクと県民手帳を手にする学生



スケーリング・ルートプレーニングの模擬実習

参加者から拍手を浴びた。春日さんは、学生食堂や学生ラウンジ、講義館、実習館、学生寮キャンパスイン、病院の概要を笑顔で説明し、バスに乗ってのキヤンパス一周ではバスガイド役を務めた。松浦君は自分の出身高校からの参加者に寄り添い、質問に丁寧に応じた。

午後の模擬実習は、歯科保存学講座・吉成伸夫教授の指導の下、スケーリング・ルートプレーニングの実習を行った。歯周病治療における基本的で最も重要な技術で、歯周プローブやキュレットを用いて歯の表面に付着した汚れを取り清潔にする作業を体験した。

その後、入試説明・進学相談会が行われた。本学を第一志望にして、総合型選抜や学校推薦

型選抜の受験を考えている方々が多く、試験科目である教養考查の内容や小論文、面接の留意点について詳しい説明がなされた。参加者からは「実習が楽しく歯科大生を実感できた」「来て見てキャンパスの自然の豊かさや充実した設備がよく分かった」などの感想が聞かれた。

また本学では、Google MeetやZoomアプリを使用したオンライン個別相談会もあわせて実施している。すでに、校友会員の方から申込みがあり、歯科矯正学講座・岡藤正教授と入試広報室の宮嶋秀明係長がオンラインで進学相談に応じた。コロナ禍や遠方のため体験入学に参加できない場合は、こちらのオンライン個別相談会をご利用ください。



配布されたダチヨウ抗体マスクと県民手帳を手にする学生

(歯学部長 宇田川信之)

台湾で見た世界一のコロナ対策

内閣官房参与
松本歯科大学常務理事
特命教授 飯島 勲

今月号から、本学常務理事・特命教授の飯島勲先生が登場する「週刊文春」「プレジデント」のコラムを転載しご紹介いたします。今回は、週刊文春本年3月26日号より、矢ヶ崎雅理事長と台湾を訪問された際の記事を掲載します。

飯島先生は、内閣総理大臣秘書官（小泉純一郎政権当時）、厚生大臣秘書官などの要職を歴任され、現在は内閣官房参与を務められております。著書は『小泉官邸秘録 総理とは何か』（文春文庫）、『ひみつの教養 誰も教えてくれない仕事の基本』（プレジデント社）など、多数。

日本中が東日本大震災への追悼の祈りを捧げた3月11日。後ろ髪を引かれる思いだったけれど、一泊二泊で台湾へひとつ飛びさせていただいたよ。蔡英文総統に先の総統再選のお祝いを申し上げなきゃいけないってことで、日本財団の笹川陽



左から矢ヶ崎理事長、飯島特命教授、笹川氏、蔡総統、陳氏

787型機にお客はたった20人ほど。台北の豪華ホテルも他の宿泊客は4人だけ。朝食も食べ放題のビュッフェは衛生面から中止になって、ガツクリ来ちゃったな。

しかし、台湾はコロナ対策では世界一ともいえる鉄壁の感染防止策を取っていて、さすが。蔡総統との面会の際も、写真撮影の時だけマスクは外したけど、それ以外の時間は「総統以外は皆さんマスクをしてください」だからね。側近の陳菊秘書長はマスクを忘れたのか慌てていたな。

政権の締め付けはすさまじいからさ。台湾を訪れる中国人観光客は、蔡総統が率いる民進党が押さええている自治体には絶対行かせない。

徹底的に圧力をかけられても、どんな独逸色を否定されていく香港の二の舞いにはならないって蔡総統の決意はすごいね。

社民党並みの存在感

苦笑しちゃったのは、老舗で野党の国民党だよ。先の総統選挙で惨敗したもんだから、48歳の若手の江啓臣を主席に選んだけど、新たに打ち出した路線がさ。「中国大陸とは是々非々の関係」とか「日米中心の外交」とか、それって民進党の言っていることと全く同じじゃん。そこまで路線転換しないと、国民党

よ。コロナ対策も徹底してるから。笹川さんは「台湾が世界一だ」って評価してるけど、外国人向けの歓楽街もすべて閉店していたし、ホテル・観光業界などはとてつもなく経営環境が厳しいはずなのに、国民からの政府への不満が一切出てないからね。

江主席との面会でもおつきは誰もいないし、日本への期待感みたいな会話にもならないんだ。近未来の日台関係のイメージが描けない感じだから、せっかく持参したお土産も渡しそびれちゃってさ。例えて悪いけど、日本の社民党並みの存在感になっちゃったな。

それより期待の星は民進党の鄭文燦桃園市長だな。これは会ってみたら笹川さんも「物が違うな」と感心してたけど、大変なオーラがあるよ。台湾の経済界筋からは「会うのは鄭市長だけでいい」とアドバイス受けたぜ。あれは間違いなく将来の総統候補と見たね。

コロナ禍の影響でいろいろな言葉が生まれた中、今ひしひしと感じているのは「ウィズコロナ」だ。考えてみれば僕は出張族といってもいいほど、外泊を伴う出張を繰り返してきた。多い年で年間の半分近くは家の外にいた。それがコロナウィルスが蔓延しだして、すべてキャンセル。それに伴い遠くの人との打ち合わせは基本的にすべてWeb会議となった。「なんだ、会に行かないでもよかったのにな」なんて単純に思ったが、大会となるとそうはいかない。飛行機に乗って行きたい国に飛び、大会に出るという単純な行為が、今はPCR検査や証明書の必要の有無、有効期限、自主隔離の有無など煩雑になる。各国の状況は大使館だけの情報だけだと不安に思い、旅行会社へ問い合わせると、予感的中。入国管理局もその瞬間の状況で多くの対応を迫られているようで、各国一筋縄にはいかない事例を聞かされた。目に見えない相手に恐怖を感じつつ、それでも行つて成し遂げたい想いの狭間が今である。

平会長がよい機会を創ってくださったからさ。

実は蔡総統が最初に当選された時も、笹川・飯島のコンビで祝賀の訪問をやったんだよね。オレの故郷、長野県にある松本歯科大は台湾からの留学生を136人も受け入れててさ。旧友

活動の他、実際のご遺体の身元確認や、警察歯科医への教育やトレーニングも行っている。また、災害時の個人識別などの精度を高めるためのDNA分析の研究や可動式パノラマの開発など、活動は多岐に亘っている。

本年は新型コロナウイルス感染症の関係で、5月開始の授業は、動画配信のオンデマンド方式で7月まで行っていた。最終回の8月3日（月）は、山田先生の他、非常勤講師である山岸光男先生、中川貴美子先生、藤田紗英子先生に来学いただき、毎年同様に実習形式の授業を行っていた。先生方には、授業前に新型コロナウイルスの抗体検査を行い、全員の先生が陰性であることを確認した上で、授業に臨んでいた。当日の実習内容は、実際の遺体の口腔内写真から、死亡時の口腔内の状態と生前に施された歯科治療痕をデンタルチャートに書き取り、生前の歯科治療歴と比較して、矛盾があるかどうか

うかの鑑定を各自で行った。歯科治療を行った日時から死亡までの期間が短く、死亡時に口腔内写真が撮影できれば、治療歴と同様の内容となるが、治療を行ってから長年経過した後の死去である場合、治療歴とはかなり違う口腔内となる。治療歴において歯の喪失による義歯やインプラントを装着した部分に実際に永久歯が存在した場合や、治療でインレーなどを入れた履

歴のある歯が全くの健全歯である場合などの知見は、矛盾する。この場合は、治療歴の個人とそのご遺体とは別人である、という判断となる。

学生諸君は、第2学年の解剖学実習で実際にご遺体に触れ、本年度の法医学歯科学の授業では、さまざまなご遺体の口腔内を観察させていただいていたため、皆戸惑うことなく鑑定を進め、疑問点は先生方に質問しながら、無事に授業を終了した。

近年、日本では気候変動により災害が多発しており、災害時の身元確認の重要性は増している。その場合に、地域の歯科開業医のカルテが重要な手がかりとなり、実際の鑑定を依頼される場合もある。今後、地域への貢献ができるような法医学歯科学の知識を有する歯科医への成長を大いに期待したい。

「新役員」

体連委員長・林 伸吾挨拶

「部活動でも本学をもっと知ってもらえるように、各部活動のサポートを全力でがんばっていききたいと思っています。また、今年度は歯学体（デンタル）もなく部活動に制限がかかっていますが、部活動から大学を盛り上げたいと思います。」

歯学体正評議員・堀尾拓未挨拶

「今年の歯学体夏期部門は中止となり残念でしたが、コロナ禍が終息することを願い、来年の開催に向けて努力しますので、ご協力をお願いします。」

選手たちの成長の証と、自分の実力を試したい気持ち。そういったアスリートとしての基本的な場所である大会に出場できないとか、開催できないかもしれない、なんてこれっぽっちも考えもしなかったが、そこから生まれる主催者への感謝の気持ちも新しい感覚だ。ウィズコロナの状況下では、当たり前が当たり前ではなくなる。物事が予想外の進路を取った時にこそ、柔軟な気持ちでこれからは大切ですね！

神奈川歯科大学法医学歯科学の先生方が 第3学年「法医学歯科学」実習を指導



デンタルチャートに基づいた鑑定の指導を受ける学生

第3学年の法医学歯科学の授業が8月3日（月）第3・4時限に、本学講義館において行われた。法医学歯科学は、神奈川歯科大学災害医療・社会歯科学講座法医学歯科学の山田良広教授が、前任

の山本勝一先生から引き継がれた本学における歴史あるカリキュラムである。神奈川歯科大学の法医学歯科学教室は、法医学歯科学の本邦における草分け的な研究室として、通常教育・研究

7月6日（月）、体育連絡協議会・文化連絡協議会合同キャプテン会議は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためコミュニケーション・アプリケーションのLINEを用いて実施され、各クラブキャプテンが参加した。

第1号議案は「体育連絡協議会および文化連絡協議会委員長

交代について」で、審議の結果、新たな体育連絡協議会委員長には林 伸吾君（第3学年・サッカー部）、文化連絡協議会委員長には長尾将平君（第4学年・軽音楽部）が承認された。また第2号議案では、2021年度

「何かと部活動に不便の多い今日であり、今年は新入生に向けて

た部活動紹介が例年よりも遅れるなど思うような活動ができないう日々が続いております。できる範囲ではありますが文化部門の連携をとって円滑な運営を心がけ、部活動から大学を盛り上げていければと思います。」

「今年度の法医学歯科学の授業では、さまざまなご遺体の口腔内を観察させていただいていたため、皆戸惑うことなく鑑定を進め、疑問点は先生方に質問しながら、無事に授業を終了した。

ラインを使って新役員選出

体連・文連合同キャプテン会議

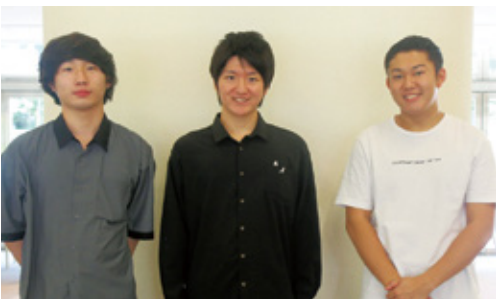
「新役員」

体連委員長・林 伸吾挨拶

「部活動でも本学をもっと知ってもらえるように、各部活動のサポートを全力でがんばっていききたいと思っています。また、今年度は歯学体（デンタル）もなく部活動に制限がかかっていますが、部活動から大学を盛り上げていければと思います。」

歯学体正評議員・堀尾拓未挨拶

「今年の歯学体夏期部門は中止となり残念でしたが、コロナ禍が終息することを願い、来年の開催に向けて努力しますので、ご協力をお願いします。」



左から新役員に選出された林君、長尾君、堀尾君

MTBペダリング 随想記



元シブニー五輪日本代表
鈴木 雷太

病院だより vol.24

シリーズ 専門性⑫

臨床検査室

臨床検査室には検査の専門家「臨床検査技師」がいます。臨床検査技師は、科学的・客観的な根拠となるデータを様々な検査機器を駆使して集め、医師による病名特定の支援を行い、また診療方針を決定するのに必要な情報を提供する役割を担っています。病院において臨床検査

臨床検査室には検査の専門家「臨床検査技師」がいます。臨床検査技師は、科学的・客観的な根拠となるデータを様々な検査機器を駆使して集め、医師による病名特定の支援を行い、また診療方針を決定するのに必要な情報を提供する役割を担っています。病院において臨床検査



生化学自動分析装置

検査技師は、医師や歯科医師の指示（検査依頼）を受けてから、臨床検査と呼ばれる医療検査を行います。臨床検査には、患者の体から血液、尿、組織の一部などを取り出して行う検体検査と、体の表面や内部を検査する生理機能検査（生体検査）の2種類があります。

最近、検体検査のメイン装置となる生化学自動分析装置（2019年9月稼働）と免疫学自動分析装置（2020年5月稼働）の更新を行いました。



免疫学自動分析装置

最後となりましたが、スタッフ一同これからも科学的な確かな目で観察する姿勢を忘れず、健康や命に関わる使命感と責任感を持って業務に向かうことを心がけていきたいと思っています。

予期せぬ新型コロナウイルスの猛威に今年度の第35回甲北信越矯正歯科学会学術大会（大会長・歯科矯正学講座教授・岡藤範正、事務局長・同准教授川原良美）は、参集形式をとらず抄録集をもつての誌上開催の形式で実施した。今回の大会テーマは、矯正歯科の可能性「無限大」とし、7月12日（日）に本学キャンパスイン101教室を会場に興味深い特別講演、シンポジウム等を企画・検討していたが、全国各地の新型コロナウイルス感染症拡大に鑑み、執行部による協議を重ねた結果、参加者の安全を最優先し通常開催断念と決定した。

初診室総合診断科・総合診療科の森啓准教授は、3月9日（月）より6月28日（日）の間に開催された文部科学省医学教育共同利用拠点・岐阜大学医学教育開発研究センター（MEDC）のフェローシッププログラム（メドギフト＝MEDC GIFT total learning course）を受講・修了しフェローと認定された。



認定証書を手にする森准教授

また、MEDCでは、年3回の医学教育セミナーとワークショップを開催しており（次回は10月3日（土）、4日（日）関西医科大学にて開催予定）、教育方法、評価、カリキュラムと医学教育に関わるあらゆる事を学ぶことができる。ワークショップやセミナーを受講すると、0・125・0・5単位が取得でき、合計3単位になるとアソシエイトとして認定されるアソシエイト制度もある。

実践、評価法、プログラムを見つめ直し、問題点改善点を抽出する良い機会となりました。あまり訪れる機会のない歯学部以外の医療系大学において、医療系多職種との職員と交流し、多くの発見、学び、気づきを得ることができそうです。皆様も一度参加されてみてはいかがでしょうか」と感想を語っている。

雄勝歯科診療所長・河瀬聡一郎先生が特別講義「地域におけるこれからの歯科の役割」



避難所におけるオーラルフレイル予防活動を映像で紹介

本学26期生で現在は宮城県石巻市の雄勝歯科診療所長を務める河瀬聡一郎先生が7月14日（火）、第1学年「入門歯科学」の授業において「地域におけるこれからの歯科の役割」と題して特別講義を行った。これまで自らが取り組んできた活動を紹介しながら、地域において歯科医師の果たすべき役割について考察した。

河瀬先生は本学障がい者歯科学講座（現・地域連携歯科学講座）に在職していた2011年、東日本大震災が発生し、被災地に派遣された本学医療ボランティアチームの行動隊長として歯科支援活動に従事した。大学チームの活動終了後も河瀬先生は個人として毎月被災地へ足を運び、12年には雄勝町からの要請により同地に開所した同診療所に就任。以来、歯科の立場から地域に根ざしたさまざまな取り組みを行っている。

河瀬先生は東日本大震災の被災地で目の当たりにした現実を学生たちに伝えた。避難所生活が長期化すると、口腔内の急性症状は放置され、口腔ケアも充分になされない。口腔内細菌は全身疾患に影響を及ぼすため、口腔ケアをしつかりすれば被災者の誤嚥性肺炎や心疾患などを予防でき、健康状態の維持向上につながる。そのためには歯科医師や医師が現場でリスクの早期発見と適切なケアをすることが重要になる。障がい者、要介護高齢者などの社会的弱者は、災害発生と同時に災害弱者となつて、自らの症状を訴えることもできず通常生活以上に困難な環境を強いられる。

このような状況を説明したうえで、河瀬先生は「災害現場では日ごろの繋がりが取り組みが反映されます。リスク患者の的確な把握や社会的弱者を災害弱者にしないためには、あらかじめ医療関係者が多職種連携を整え、地域行政も横の繋がりを持つことが重要です」と強調した。



講義する河瀬先生

学術大会を誌上にて開催しWeb講演を実施

第35回甲北信越矯正歯科学会

予期せぬ新型コロナウイルスの猛威に今年度の第35回甲北信越矯正歯科学会学術大会（大会長・歯科矯正学講座教授・岡藤範正、事務局長・同准教授川原良美）は、参集形式をとらず抄録集をもつての誌上開催の形式で実施した。今回の大会テーマは、矯正歯科の可能性「無限大」とし、7月12日（日）に本学キャンパスイン101教室を会場に興味深い特別講演、シンポジウム等を企画・検討していたが、全国各地の新型コロナウイルス感染症拡大に鑑み、執行部による協議を重ねた結果、参加者の安全を最優先し通常開催断念と決定した。

科医師で、『気道としての口腔を考える』鼻呼吸を促す歯科治療」と題したすばらしいご講演となった。

また、日本矯正歯科学会認定医更新症例を症例展示として発表いただいた先生方については、日本矯正歯科学会より派遣された審査員のもと厳正な審査が行われた。

「口から人々の体の健康を守る」を信条に精力的に活動する河瀬先生の姿勢に学生たちは感銘を受けていた。

院長・廣俊明先生（塩尻市開業・本学8期生）より「日本矯正歯科学会専門医試験に合格したリソナルマルチブラケット法症例」と題し、ご講演をいただいた。



今井先生によるWeb講演（パソコン画面より）

防し改善する河瀬先生の活動の様子はNHKのニュース番組「おはよう日本」で取り上げられ、歯科医師の新たな役割と貢献が全国に紹介された。

また河瀬先生は、男性高齢者向けの介護教室を立ち上げていく。妻の介護や食事づくりなど少ないうえに、完璧にこなそうとして介護疲れや介護うつになり、介護者も倒れることになりかねない。介護教室では、調理実習のほか、床ずれ予防、救急蘇生法を学び、参加者が抱えて

いる悩みを打ち明け皆でアドバイスし合う悩み事相談の場も設けられている。

河瀬先生は授業の最後に「歯科医師は、人の『食べる』を支える職業です。地域の特性を見て歯科の可能性を考え、口から全身を見て、全身から地域を見ることがこれからは求められます」と締めくくった。

新教授紹介

(2020年9月1日付就任)

歯科補綴学講座

教授 樋口 大輔



担当しております。
学生教育においては補綴学およびインプラント学を担当し、光学印象やガイデットサージェリーなどデジタルデンティストリーの普及・定着に務め、研究においては患者立脚型アウトカ

このたび、ご縁を頂きまして歯科補綴学講座主任教授を拝命致しました樋口大輔でございます。学内および学友の皆様には本紙面をお借りして、挨拶申し上げます。

これまで診療においては昭和大学歯科病院にて補綴科外来長やインプラントセンター副センター長として冠橋義歯から有床義歯まで補綴全般を、そしてインプラントにおいては埋入から補綴、メンテナンスまで全般を

樋口 大輔教授 略歴

1992年 3月	昭和大学歯学部歯学科	卒業
1996年 3月	昭和大学大学院 (歯科補綴学)	修了
4月	昭和大学第1 歯科補綴学教室	助手
2002年 1月	昭和大学第1 歯科補綴学教室	講師
2003年 9月	昭和大学歯科病院 (インプラント科)	講師 (兼任)
2006年 9月	ドイツ チュービンゲン大学	Wissenschaftler
2012年 4月	昭和大学歯科補綴学講座	講師 (名称変更)
4月	昭和大学歯科病院インプラントセンター	副センター長
2020年 9月	松本 歯科大学歯学部歯科補綴学講座	教授

低ホスファターゼ症と歯科の関係

乳歯の早期脱落による歯科受診が診断の起点に

低ホスファターゼ症は、進行性の骨の疾患で、アルカリホスファターゼという酵素の異常によって骨の形成が阻害され、骨が弱くなる病気です。低ホスファターゼ症を疑うサインの一つが歯の症状で、乳歯が早く抜けてしまうことです。4歳になる前に根っこが残った状態で乳歯が取れてしまうのが特徴で、初期は歯のみの症状であっても徐々に全身に現れる可能性があるため、早期に発見し適切な対応をすることが重要となります。この病気の啓発に努める小児歯科学講座の大須賀直人教授に解説をお願いしました。

低ホスファターゼ症 (HPP) は先天性骨疾患であり、組織非

ムによる治療効果の検証を中心に行って参りました。

松本歯科大学は緑に囲まれた大変すばらしい環境で、留学していたドイツ南西部の学園都市にあるチュービンゲン大学を思い出します。また、大学病院の設備もすばらしく、特診室やインプラント専用手術室からの眺

本学の新型コロナウイルス抗体検査の論文が

医学総合雑誌『医学の歩み』に掲載

論文「新型コロナウイルスの抗体検査を用いた松本歯科大学学生・教職員の疫学調査」が、医歯薬出版が発行する週刊『医学の歩み』7月25日号に掲載されました。同誌は、医学に関する最新情報を基礎・臨床の両面から総合的に幅広い視点で紹介する医学総合雑誌です。執筆者は内科学・前島信也教授 (松本

歯科大学病院長)、口腔生化学講座・宇田川信之教授 (歯学部)、臨床検査室・中西正人技師主任、口腔生化学講座・中村美どり准教授、公衆衛生学講座・山賀孝之教授、総合歯科医学研究所硬組織機能解析学講座・山下照仁准教授、内科学・川茂幸特任教授、矢ヶ崎雅理事長。以下に内容を要約して掲載し

めは緑に囲まれていたドイツの診療室を思い出し、大変感銘を受けました。

現在はコロナ禍にて様々なことが制限されており、特に首都圏は元気がありません。このような時期であるからこそ、この地域から元気を取り戻し、新たな情報発信をしていきたいと思

います。

本学の教育の基本である「歯科医療人である前に良き社会人であれ」という言葉を胸に、この地域の患者さんのため、学生そして医局員のため、全力で職務を行う所存です。改めまして、どうぞよろしくお願いたします。

ます。(論文は2020年6月3日時点の情報に基づいて書かれたものです。)

【目的】

新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) の感染歴を明らかにする目的で、松本歯科大学の教職員に、抗体検査法による疫学調査を実施した。現在までに都市部の抗体検査による感染状況の報告はあるが、地方都市の感染状況は明らかにされていない。本研究により、塩尻・松本地区に居住する学生・職員 (教職員) の新型コロナウイルスの感染歴

児型「小児型」「成人型」「歯限局型」の5病型に

分類されます。5病型においても乳歯の早期脱落の発生率は高く、



乳歯の早期脱落による歯科受診が診断の起点になることもあります。乳歯の早期脱落は栄養摂取や生活面で問題になります。2015年には治療薬であるアスホターゼアルファによる酵素補充療法が確立されて

いますが、HPPの患児の歯根ではセメント質形成不全がみられることが多く、早期脱落例では保障装置として小児義歯を装着することが多くなります。小児義歯は審美的回復のみならず審美性、発音機能ならびに咀嚼嚥下機能の回復を行い、歯列咬合の管理を行うことが必要です。



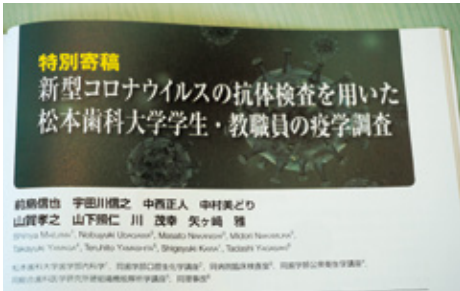
HPP症例 4歳男児 主訴：乳前歯の脱落

人種差もみられ、発症時期が早いほど重症であるとされています。臨床分類は「周産期型」「乳

例とともにブランクコントロール

いることから、これまで県内5カ所の歯科医師会に出向いて、会員の方々に啓発も行っています。乳歯の早期脱落による歯科受診が診断の起点になることもあることから、3歳児健診に乳歯の脱落を確認する項目を設定するなど、行政に働きかけを行う準備もしています。なかなか聞ききれない疾患ですが、最近の国家試験には「乳歯の早期脱落症例」として、108回の歯科医師国家試験にも出題されています。歯科ではメジャーな疾患ですが、医科の国家試験出題基準の内分泌疾患には記載がありません。軽症な病型では歯科受診が診断の起点になることから、われわれ小児歯科医は疑われる患者さんが来院された際にはHPPを疑って、小児科医に血液検査を依頼するなど連携協力が重要であると思っています。

(小児歯科学講座 教授 大須賀直人)



「医学の歩み」に掲載された論文

が明らかにになれば、この地方における住民の感染状況に関する貴重な情報を行政に提供し、今後の感染対策に有効に活用できると考えられる。

【方法】

松本歯科大学研究等倫理審査委員会の審査を経て実施した。検査期間は2020年5月11日から28日。GenBody社製・新型コロナウイルス抗体迅速検出キットを用いた。

【結果】

IgM抗体Ⅱ反応陽性者0人、陰性者1146人
IgG抗体Ⅱ反応陽性者0人、陰性者1146人

【考察】

松本歯科大学の学生・職員全員の抗体検査が陰性であったことは、既感染はなく現時点での感染リスクもきわめて低いと考えられる。学生・職員の主な居

人事異動

〔退職〕 7月31日付

軽辺美維子 (手術室看護師)

松沢 遥花 (病棟看護部室看護師)

〔配置換〕 8月1日付

中村 良二 (事務局総務課 契約職員)

〔定年退職〕 8月4日付

汲田 ちえ (歯科衛生士室歯科衛生士)

〔採用〕 7月20日付

矢島由佳里 (看護部看護職員 (パートタイム))

8月5日付

汲田 ちえ (歯科衛生士室歯科衛生士 (契約職員))

9月1日付

樋口 大輔 (歯学部歯科補綴学講座)

〔9月行事予定〕

5日(土) 一日体験入学 (衛生学院)

6日(日) 一日体験入学 (歯学部)

7日(月) 後期授業開始 (第4学年)

9日(水) 後期授業開始 (第3学年)

11日(金) 前期定期試験 (第6学年)

11日(金) 前期定期試験 (第13学年)

22日(火) 一日体験入学 (歯学部)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

23日(水) 後期授業開始 (第13学年)

Matsumoto Dental University SNS Information



LINE



twitter



Instagram



facebook